

国立駅南口駅前広場整備

コレマデ → コレカラ

のあゆみ



1926 (大正 15 年) 当時の国立大学町の写真 写真：くにたち郷土文化館所蔵

2023 (令和 5) 年、国立駅南口駅前広場基本設計の公募型プロポーザルを実施し、いよいよこれから、国立駅前の東西広場、円形公園の整備といった「国際の顔づくり」がスタートします。

今に至るまで、たくさんの市民の皆さまのご意見をいただけてきました。これまでの取り組みのあゆみをご紹介します。



コレマデ

国立駅周辺の整備は、「国立駅周辺まちづくり基本計画 | 2009 (平成 21) 年」に基づき、検討を進めています。2010 (平成 22) 年～2014 (平成 26) 年にかけては、国立駅周辺まちづくり会議でまち育て・景観・交通の3つの部会ごとに、国立駅周辺のまちづくりについて包括的に検討してきました。

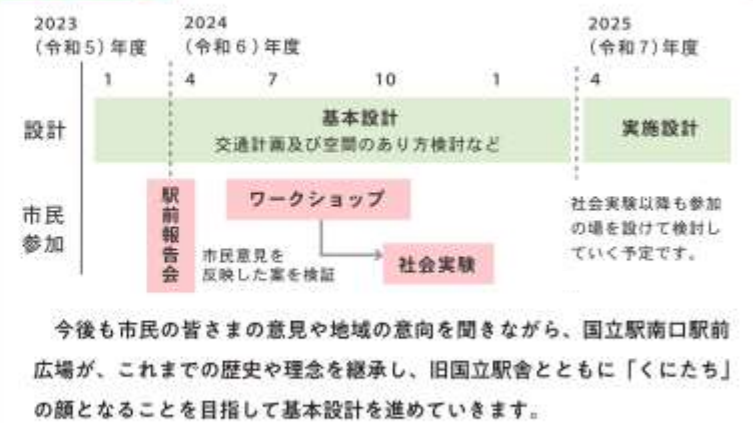
南口の整備については、2020 (令和 2) 年に旧国立駅舎を再築し、今後は南口ロータリー及び円形公園、東西広場の再整備を予定しています。

今後の南口の整備に向けて、2021 (令和 3) 年に整備コンセプトなどに関する市民アンケートを実施し、2022 (令和 4) 年 7 月に「旧国立駅舎東西広場・円形公園整備基本方針」を策定しました。

2022 (令和 4) 年度には「国立駅南口駅前デザインアイデアコンペ」を実施し、18 の優秀作品の選定を通じて、整備で大切にしたい視点を明確にしました。

そして、2023 (令和 5) 年、基本設計業務の公募型プロポーザルを実施し、事業者を選定しました。

コレカラ



旧国立駅運営連絡会での検討の経過

- 令和 3 年 1 月 旧国立駅者周辺整備について
- 令和 3 年 3 月 旧国立駅舎周辺の検討・委員の描く駅前広場
- 令和 3 年 10 月 広場整備におけるアンケート調査の素案の作成
- 令和 3 年 11 月 ウォールメッセージ 「つくろいうりそうの駅前広場」
- 令和 4 年 4 月 旧国立駅舎東西広場・円形公園整備基本方針案素案について
- 令和 4 年 11 月 らくがき広場の実施
- 令和 5 年 7 月 駅前広場活動の視点から意見交換
- 令和 5 年 11 月 駅前広場の整備状況の報告

- 令和 5 年 8 月 23 日 プロポーザルの公募
- 令和 5 年 11 月 29 日 プレゼンテーション
- 令和 6 年 1 月 12 日 基本設計業務委託契約を締結
- 令和 6 年 3 月 20 日 市報掲載
- 令和 6 年 3 月 30 日 駅前報告会

国立駅南口駅前広場基本設計

プロポーザル案

※このパースは事業者より示された「提案」であり、
このとおり整備されるものではありません。
今後ワークショップなどを開催し、広く意見を募集していきます。

「みんなで作る次の100年の広場」

約100年前、国立駅と共に大学町が生まれました。三角屋根の駅舎、水禽舎のある円形公園が特徴的な駅前広場は人々が集まる場所でした。これらは時と共に車中心の空間に変わっていきました。現在、旧駅舎再築を機に、駅前を人中心の空間とする機運が高まっています。

そこで、駅前から大学通りに繋がる緑と人の空間をつくり、そこに集まる動植物も含め、それぞれが居心地よく過ごせる駅前広場をコンセプトとしました。そして、そこに人々が関わり、様々な活動を通して考え学ぶ場へと成長する国立駅南口駅前広場を目指します。

イメージ 将来の国立駅南口駅前



西側広場 イメージ



東側広場 イメージ



イメージ 広がる東西の歩道



設計会社（共同体）

パシフィックコンサルタンツ 株式会社
株式会社イー・エー・ユー
株式会社 石塚計画デザイン
JUNPEI NOUSAKU ARCHITECTS 株式会社
ピオフォルム 環境デザイン室
WAKUWORKS 株式会社

各優秀作品の評価のポイント

国立駅前らしさ ユニバーサルデザインへの配慮
自然環境や生態系への配慮 多世代の利用や交流
周辺の都市空間との関係性や景観への配慮
設計や維持管理のプロセスへの市民等の関わり
日常・非日常における多様な使い方や過ごし方への対応

整備の方向性

- ・ロータリーの形状は変わらない
- ・大学通りから駅前まで緑の空間を繋げ、憩いの空間の創出
- ・様々な方が歩きやすいよう、ロータリー東西の歩道を広げる
- ・車いすの方でも使いやすいように段差を必要最小限に抑える
- ・イベント用備蓄倉庫と公衆トイレを新たに設置する
- ・円形公園は非日常的に立ち入ることができる場所にする